

裏路地探険

約450年の歴史を誇る金山町の面影が残る
豊臣秀吉、徳川家康の御金蔵だった中瀬金山
「鉱石の道」もうひとつの鉱山を訪ねる…

天正元年（1573）、鳥取県から訪れた旅人が八木川河畔で砂金を見つけたことから、金山の歴史が始まったという養父市中瀬。その後、豊臣秀吉が支配し、徳川時代を経て、昭和までの約400年間、日本有数の金山として栄えた。

江戸時代は生野奉行所の直轄鉱山となり、「中瀬金山町」と称された町には幕府の役人が駐在した「陣屋」が築かれ、近畿で最大の金山町として開発された。町境の3カ所に関所（門口）が置かれ、商人が通る際には通行手形や運上金（税金）が必要だったという。

「鉱山都市でありながら、総構えと呼ばれる城郭都市の姿を持った町なんですよ」とは、案内をお願いした中瀬金山会の有本正彦さん。竹田城や八木城の城下町と似たような構えであり、町割は当時



南北に厚みを持った「総構え」と呼ばれる町並み。町のあちこちには江戸時代に金鉱石を砕く時に使った「山臼（左上）」があり、金山町特有の遺産である。



山臼の土台として使われていた石造物（下）



昭和10年に日本精鉱の経営となり、自然金やアンチモンを産出する近代的鉱山として栄えた。



集落の北側にある台地は陣屋跡で、今は畑となっている。陣屋の規模は桁行約20メートル、梁間約8メートル。石垣が残り、中央には埋め直したと思われる石垣があり、ここが陣屋の入り口だったと考えられている。元和3年（1617）には佐渡金山の鉱山師・味方但馬が金山開発の指導に訪れている。



大日寺は中瀬でも古い寺院で、平安後期に造られたとされる大日如来座像を本尊として祀る。牛の守り本尊として有名で、3月の最終日曜日に行う「大日祭り」は、明治の頃は但馬の三大祭りとして繁栄した。牛堂には牛の石像があり、畜産農家の信仰が篤い。

から変わっていない。八木川を堀と見立てて、高台の陣屋を守るように寺院が配置されている。敵が攻め込みにくいクランクや「折れ」と呼ばれる斜めに曲がった見通しの悪い道路など、防御能力を備えた町が人工的に整備されていた。寛永年間には空き地がないほど家が建ち並び、米蔵が5カ所もあった。旧養父郡・朝来郡の各村から運んでも米が足りず、鳥取から買い入れをするほどだったという。

江戸中期以降は湧水の処理に苦慮し、長らく休眠状態が続いた。明治維新後に官営鉱山となると、その後変遷を経て、中瀬鉱山は民間に払い下げられ、昭和10年（1935）からは日本精鉱株式会社が経営を開始。日本一美しい自然金が出る鉱山として再び脚光を浴びると同時に、アンチモン



10/26(日)開催の中瀬フェスでは、名物「金山焼き」の実演販売も。



三柱神社の境内。本殿横には立派な舞台が残っている。昔、八木城下から神官が移り住んだと伝えられ、屋敷跡もある。



中瀬金山で最初に開かれた石間歩坑口と山神社

●「T2 裏路地探険」参加募集!!
平成26年10月4日(土) 10:00~12:00
「郷土文化が息づく村を歩く」新温泉町久谷
*上記実施日の10日前までに、18ページに掲載の但馬の情報誌「T2」編集部まで、住所・氏名・年齢・電話番号・「T2 裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキで申し込みください。開催当日は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切後、参加ご希望の方へ郵送にて案内を送付します。

鉱山町特有の寺院が多いのも、町の特徴といえる。かつては7カ寺もあり、今も残る「金昌寺」「金昌寺」「宝泉寺」は、金山町にふさわしい名前が付けられているから面白い。日蓮宗の「宝泉寺(右上)」には妙見堂があり、北極星を仰ぐ妙見信仰は、航海の目印となることから海上安全の神でもある。それ故に暗闇から無事を守る鉱夫の安全も祈願された。常連寺の「東向観音」は白岩城主の守り本尊であり、城跡が見える東を向いている。今は学徳成就・諸病成就の仏様として信仰がある。



左上から時計回りに「金昌寺」「宝泉寺」「常連寺(東向観音)」「金昌寺」

の産出でも国内有数の規模を誇った。昭和26年の最盛期には、月51キロ(現在の価格で約2億円)もの金を産出したそうだ。

「戦後は社宅と合わせて1千人ほどの住民がいて、商店が軒を連ね、何でも手に入った」と話すのは、金山会の太田垣忠雄会長。「大屋口には社宅や銭湯があり、パチンコなどの娯楽施設もありました。週末には映画の上映があり、賑やかなものでした」と教えてくれた。

昭和44年に採掘を終えたが、国内屈指のアンチモン製錬の技術は残り、現在は輸入した材料から、国内生産の80%を占めるアンチモン製品(触媒や減摩材、ガラス清澄剤など)を製造し、今も現役の製錬工場として日本の産業を支えている。

金鉱脈が発見されてから約450年もの歴史を持つ中瀬金山町。地元ではこの産業遺産を活かそうと「中瀬金山会」を結成し、生野、神子畑、明延の3鉱山をPRする「鉱石の道」と連携して町おこしに努めている。9月からは「鉱石の道フェア」が開催され、中瀬でも10月26日(日)に「金山フェア」を開催する。近畿では珍しい江戸時代の風情が残る金山町を、秋風に吹かれ散策してみたいかがだろうか。